



2025年12月期
第2四半期
決算説明資料



2025年8月26日
株式会社やまびこ



INDEX

1. 2025年12月期 第2四半期 決算概要	3	APPENDIX	27
2025年12月期 第2四半期 経営成績	4	会社概要	28
2025年12月期 第2四半期 販売状況	5	やまびこの歩み	29
連結売上高および連結営業利益の増減	6	業績推移と売上構成	30
四半期別業績推移	7	事業セグメント：小型屋外作業機械（OPE）	31
セグメント別経営成績	8	事業セグメント：農業用管理機械	32
売上高実績（セグメント・地域別）	9	事業セグメント：一般産業用機械	33
		国内生産体制	34
2. 2025年12月期 業績予想	10	海外生産体制	35
米国関税政策の影響	11	販売体制	36
2025年12月期 通期予想	12	主要販売子会社：やまびこジャパン株式会社	37
連結売上高のセグメント別増減予想（円換算ベース）	13	主要販売子会社：エコー・インコーポレイテッド	38
連結営業利益の増減予想	14	主要販売子会社：やまびこヨーロッパ・エス・エイ	39
売上高目標（セグメント・地域別）	15	主な販売経路	40
設備投資・研究開発費・減価償却費	16	国内・海外のユーザー	41
株主還元政策	17		
3. 中期経営計画2025の進捗状況について	18		
業績推移と数値目標	19		
米国市場について	20		
トピックス：既存事業領域①	21		
トピックス：既存事業領域②	22		
トピックス：新規事業創造への取り組み①	23		
トピックス：新規事業創造への取り組み②	24		
トピックス：ESG経営	25		
やまびこの存在意義	26		

1

2025年12月期 第2四半期 決算概要

2025年12月期 第2四半期 経営成績

- 売上高は前年同期比で増収。主力の海外OPE※が北米市場ならびに欧州市場で好調に推移したほか、国内においても農業従事者の購買意欲回復が継続し、小型屋外作業機械および農業用管理機械の販売が伸長。
- 損益面は、総人件費やプロモーション費用の増加により販管費が増加したものの、生産効率の改善により営業利益は増益。経常利益は、前年同期増益に寄与した為替差益が米ドルの円高基調により為替差損に転じたことから減益となり、それに伴い最終利益も減益。

売上高

91,288 百万円
(前年同期比 +5.7%)

営業利益

11,743 百万円
(前年同期比 +3.1%)

親会社株主に帰属する

当期純利益

7,508 百万円
(前年同期比 ▲25.3%)

(百万円)	24/12期 2Q 実績		25/12期 2Q 実績		
		構成比 (%)		構成比 (%)	前年同期比 (%)
売上高	86,406	100.0	91,288	100.0	+5.7
売上原価	57,232	66.2	59,972	65.7	+4.8
販管費	17,787	20.6	19,572	21.4	+10.0
営業利益	11,386	13.2	11,743	12.9	+3.1
経常利益	12,672	14.7	10,786	11.8	▲14.9
親会社株主に帰属する 四半期純利益	10,047	11.6	7,508	8.2	▲25.3

■ 為替レート

1ドル	151 円	149 円	▲1.2
1ユーロ	164 円	161 円	▲1.6

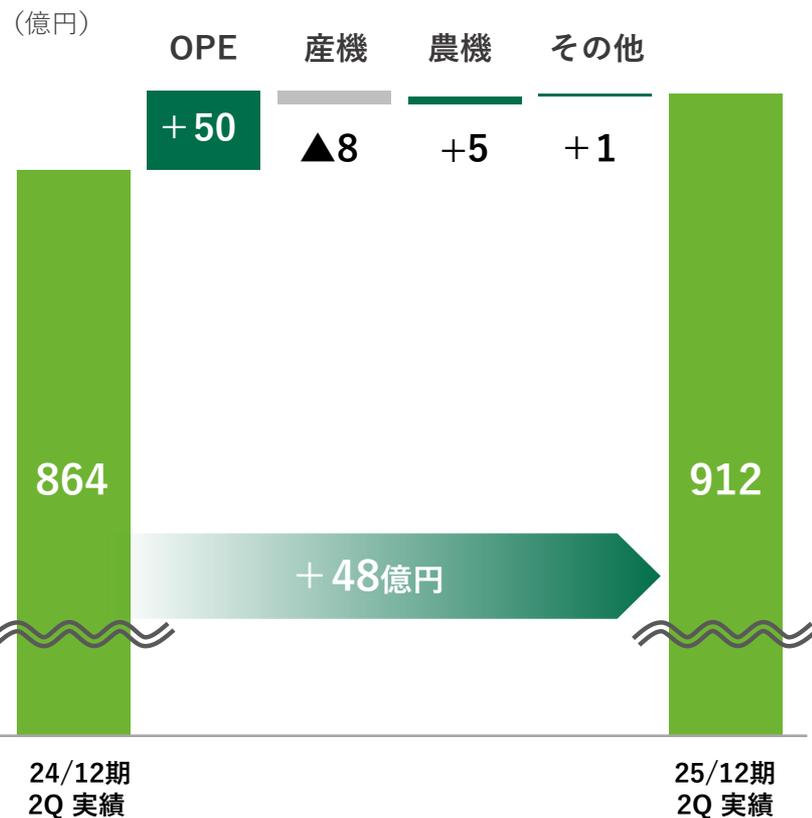
※ 「OPE」 = Outdoor Power Equipment

2025年12月期 第2四半期 販売状況

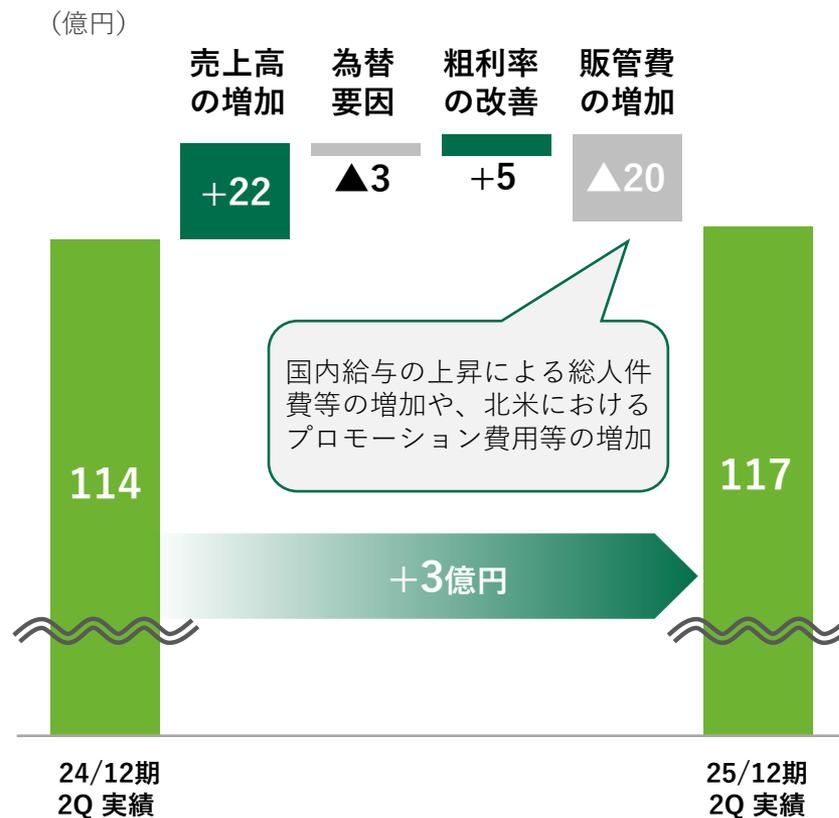
(百万円)		24/12期 2Q 売上高	25/12期 2Q 売上高	前年同期比(%)	概要	(ご参考) 前年同期比(%) ※為替影響除く	
小型屋外 作業機械 (OPE)	国内	7,400	7,721	+4.3	米価の上昇を背景とした農業従事者の購買意欲の高まりにより、チェーンソーや刈払機、防除機等の販売が堅調に推移し増収。	+4.3	
	海外	北米	49,318	49,215	▲0.2	良好な天候やテレビ広告などのプロモーション効果によりホームセンター向けの販売が好調に推移。	+2.5
		欧州	5,724	9,012	+57.4	新型ロボット芝刈機の販売伸長や昨年に進んだ代理店の在庫調整により販売が回復したことで増収。	+59.8
一般産業用 機械	国内	4,844	4,430	▲8.5	エンジンカッターや投光機など一部製品の販売は堅調に推移した一方で、主力の発電機の販売が伸び悩み減収。	▲8.5	
	海外	2,916	2,443	▲16.2	米国の関税政策に伴う先行きの不透明感から、現地レンタル会社の買い控えが生じ、主力の発電機販売が減少したことで減収。	▲14.7	
農業用 管理機械	国内	8,972	9,663	+7.7	堅調な需要を背景に、水田の管理作業などに使用される防除機等の販売が好調に推移し増収。	+7.7	
	海外	3,451	3,272	▲5.2	北米市場における穀物価格の低迷継続や生産コストの上昇を背景に、農業事業者が設備投資に慎重になっていることが影響し減収。	▲2.7	

連結売上高および連結営業利益の増減

売上高



営業利益



四半期別業績推移



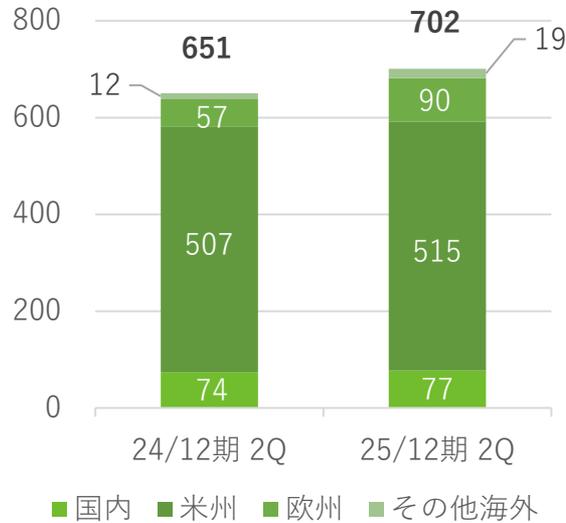
セグメント別経営成績

(百万円)	24/12期 2Q 実績		25/12期 2Q 実績		
		構成比 (%)		構成比 (%)	前年同期比 (%)
売上高	86,406	100.0	91,288	100.0	+5.7
小型屋外作業機械	65,112	75.4	70,211	76.9	+7.8
一般産業用機械	7,760	9.0	6,874	7.5	▲11.4
農業用管理機械	12,424	14.4	12,935	14.2	+4.1
その他	1,108	1.3	1,267	1.4	+14.3
営業利益	11,386	-	11,743	-	+11.4
小型屋外作業機械	15,708	138.0	15,796	134.5	+0.6
一般産業用機械	560	4.9	769	6.6	+37.4
農業用管理機械	347	3.0	139	1.2	▲59.8
その他	189	1.7	350	3.0	+84.8
全社共通費	▲5,419	-	▲5,313	-	-

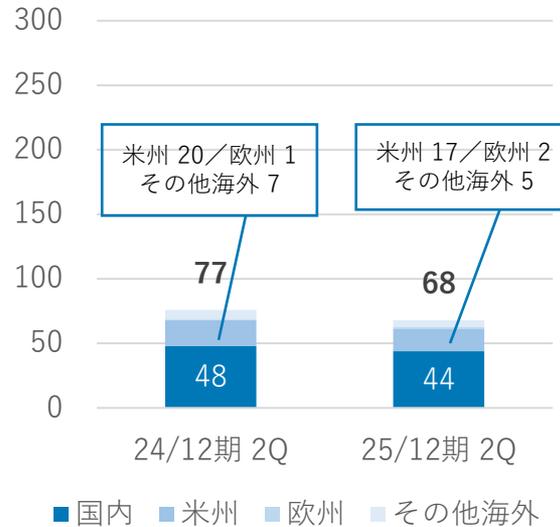
売上高実績（セグメント・地域別）

（単位：億円）

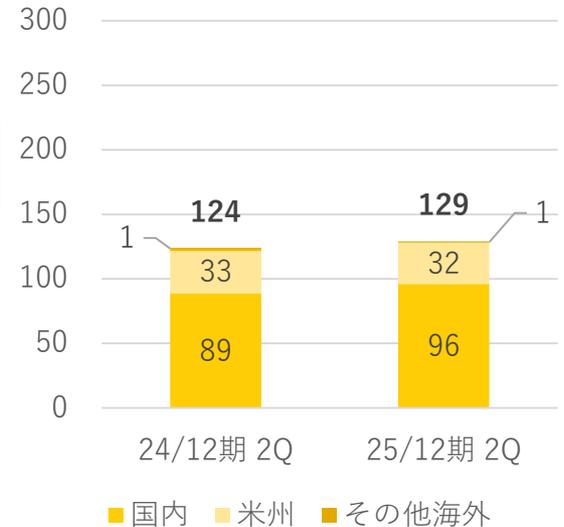
小型屋外作業機械（OPE）



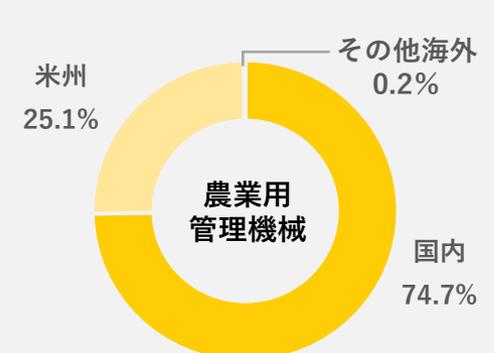
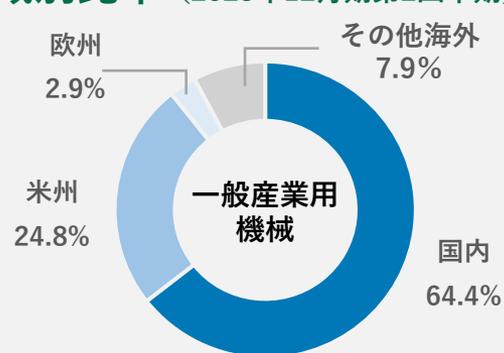
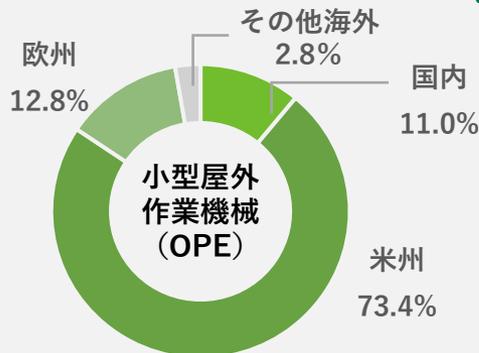
一般産業用機械



農業用管理機械



地域別比率（2025年12月期第2四半期）



2

2025年12月期 業績予想

米国関税政策の影響

- 当社は米国販売製品の大半を現地子会社で生産しているものの、サプライチェーンは日本を含む複数国にまたがっており、一定の影響を受ける米国の関税政策に対しては、2025年4月より以下の対応を推進中
 - ✓ 米国生産拠点の機能を最大限に活用すべく、生産移管計画を加速
 - ✓ 全社を挙げた更なる原価低減の推進
 - ✓ パートナー企業との連携によるサプライチェーンの最適化

- 8月8日の決算発表時点における関税政策（日本 15%）に対しては、価格対応や経費の追加削減により、影響を最小限とする計画

- なお、8月15日公表の鉄鋼・アルミニウム製品に対する50%の追加関税※の適用拡大については、影響の有無について精査中
 - ※製品・部品に含有する鉄鋼・アルミ材料の購入価格に対する課税

2025年12月期 通期予想

- 2025年12月期通期業績予想は、2025年5月13日に公表済みの業績予想から変更なし。
- 足元の為替水準を踏まえ、3Q以降の想定レートを1USドル：145円（前回140円）、1ユーロ：165円（同160円）に修正。

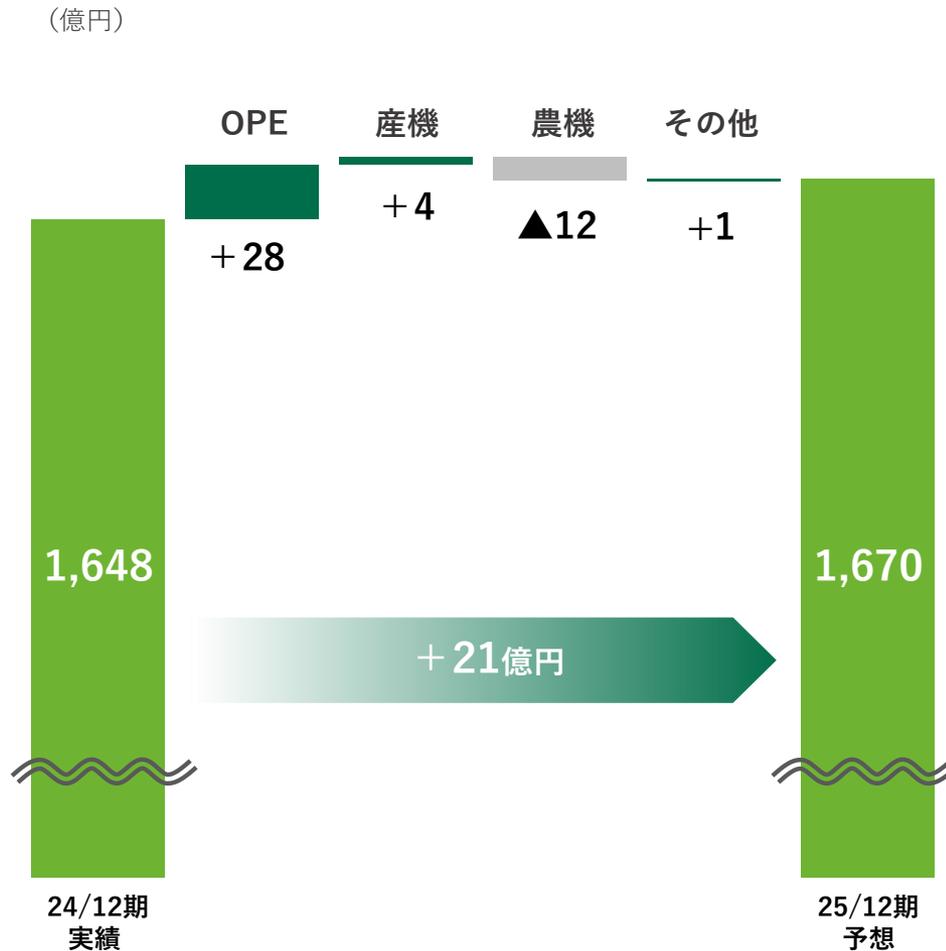
(百万円)	24/12期 実績	構成比 (%)	25/12期 予想		
			構成比 (%)	前年比 (%)	
売上高	164,838	100.0	167,000	100.0	+ 1.3
売上原価	108,186	65.6	111,000	66.5	+ 2.6
販管費	37,014	22.5	37,500	22.5	+ 1.3
営業利益	19,637	11.9	18,500	11.1	▲5.8
経常利益	20,899	12.7	17,000	10.2	▲18.7
親会社株主に帰属 する当期純利益	15,889	9.6	12,500	7.5	▲21.3

為替レート	24/12期 実績	25/12期 3Q-4Q予想	25/12期 通期予想※
1ドル	151 円	145 円	147 円
1ユーロ	164 円	165 円	163 円

※3Q以降を1ドル:145円 1ユーロ:165円と想定した場合の通期予想レート

2025年3Q-4Qの為替影響 (1円変動 円安: + 円高: -)	売上高	経常利益
USD	±3.5億円	±0.3億円
EUR	±0.6億円	±0.6億円

連結売上高のセグメント別増減予想（円換算ベース）



小型屋外作業機械(OPE)

持続的成長を続ける北米市場において、特にホームセンター向けを中心に順調に推移するほか、欧州は昨年に進んだ代理店在庫の調整を背景に売上増加を見込む。

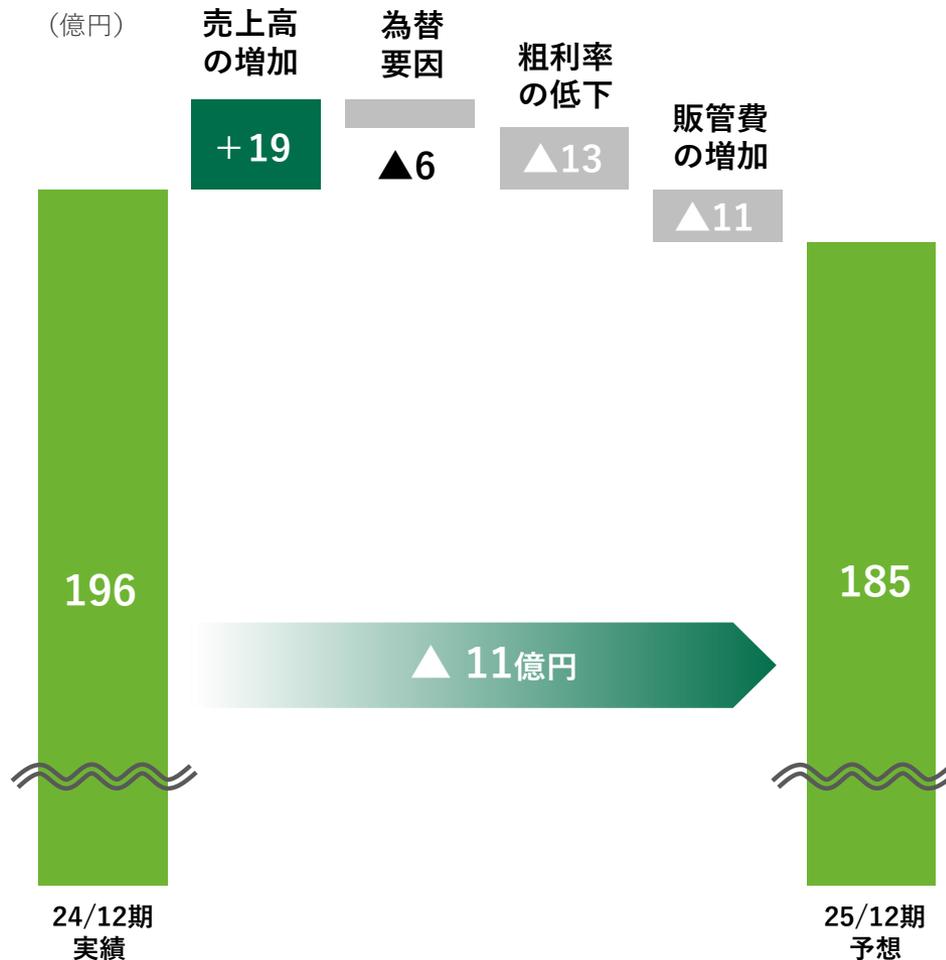
一般産業用機械(産機)

国内・海外ともに安定したインフラ需要が続く見通し。海外は、北米市場において大手顧客獲得に向けた販売活動を推進する。

農業用管理機械(農機)

国内は農家の購買意欲の回復により前年並みを見込む。一方、海外は北米における穀物価格の低迷等により、農家の設備投資意欲が低下しており、減収の見通し。

連結営業利益の増減予想



売上高要因

為替の影響を除いた実質売上高の増加による利益増。

為替要因

前期対比での円高想定による利益の減少。

粗利率

部材費コストや製造人件費水準の上昇等により原価率アップ。米国関税の影響はあるものの最小限にとどめる。

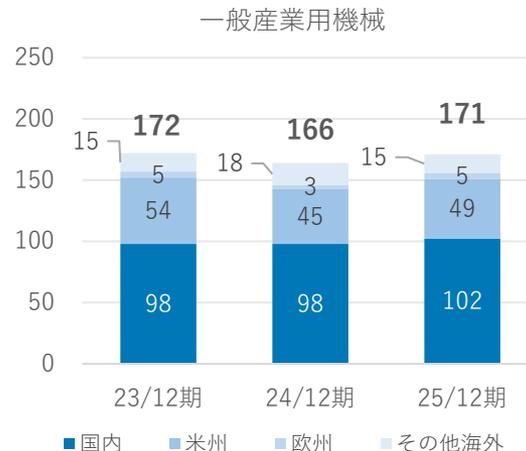
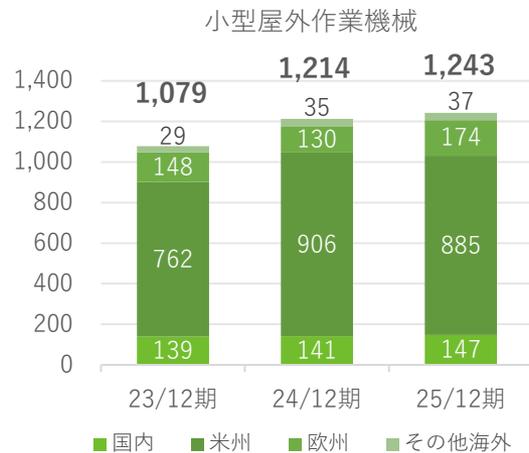
販売管理費

人件費水準の上昇や開発・マーケティング費用、IT分野への投資拡大に伴う販管費（業務委託費・償却費）の増加。

売上高目標（セグメント・地域別）



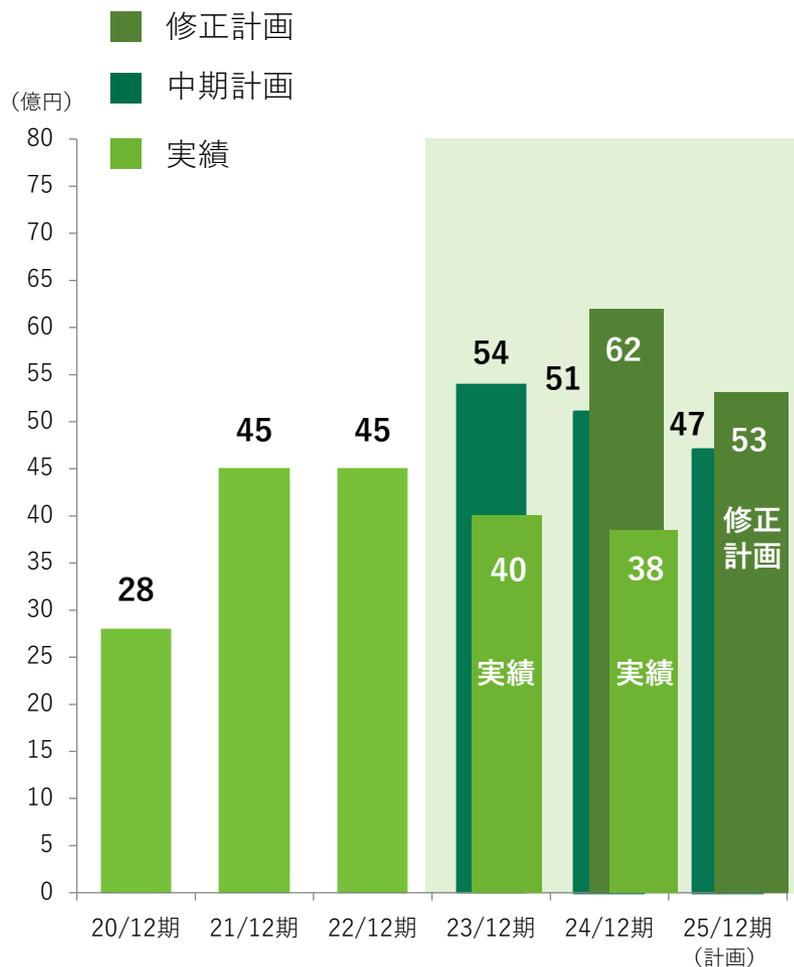
セグメント・地域別売上高



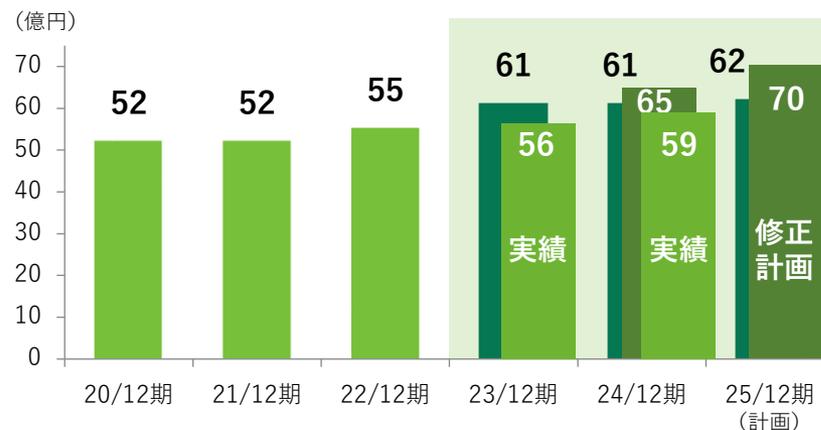
※主要セグメントに含まれない「その他」の売上が、23/12期 22億円、24/12期 20億円、25/12期 22億円 あります。

設備投資・研究開発費・減価償却費

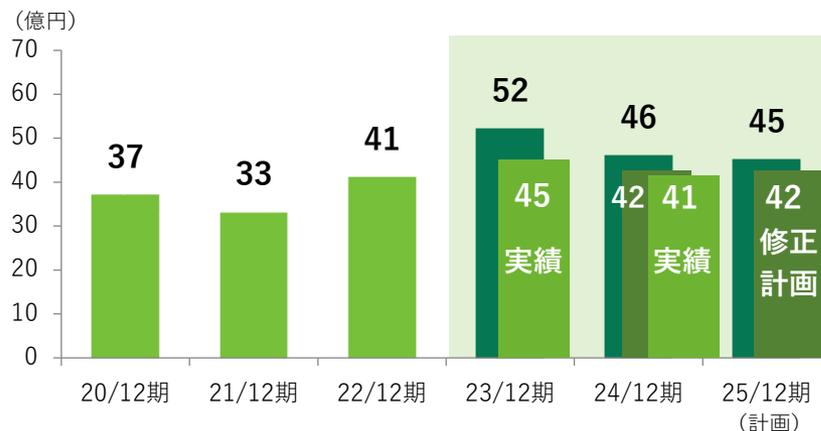
設備投資



研究開発費



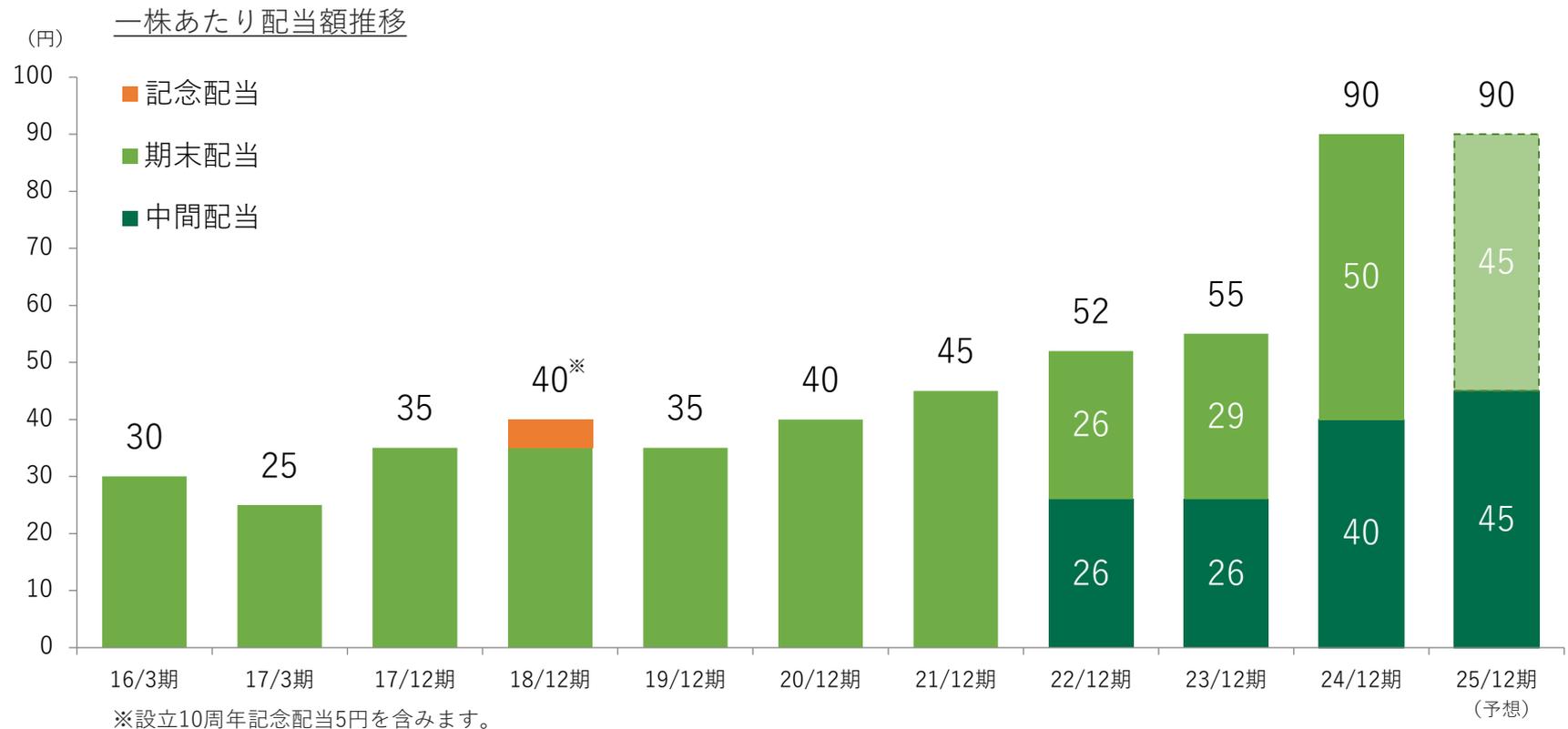
減価償却費



株主還元政策

過去の配当実績に基づき、安定的な配当を継続

- 経営環境や業績および財務状況を勘案するとともに、株式市場の動向も注視して総合的な還元策を検討
- 2024年に引き続き、自己株式取得を実施（2025年3月～5月にかけて40万株・約9億円を取得済み）



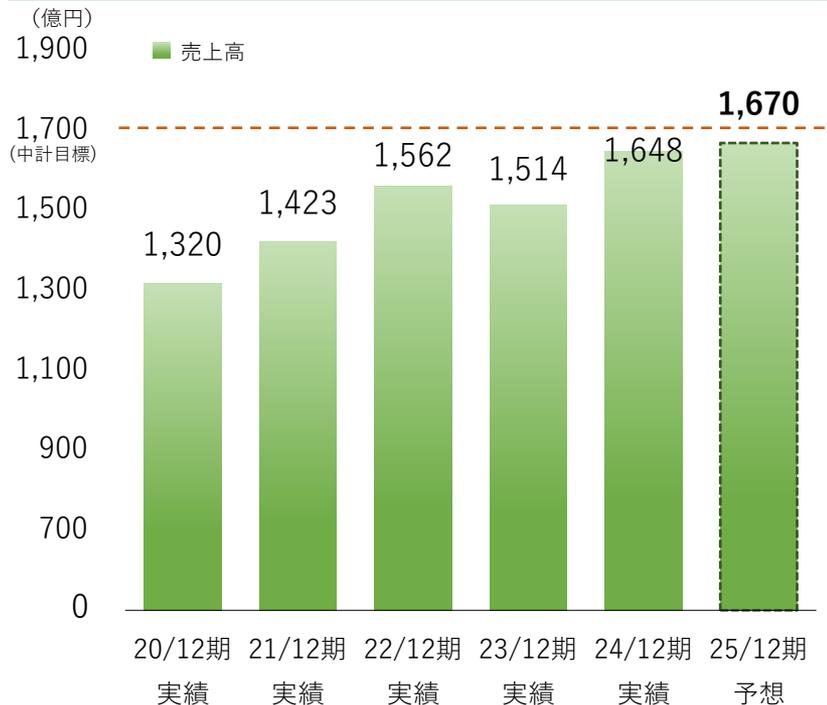
3

中期経営計画2025 の進捗状況について

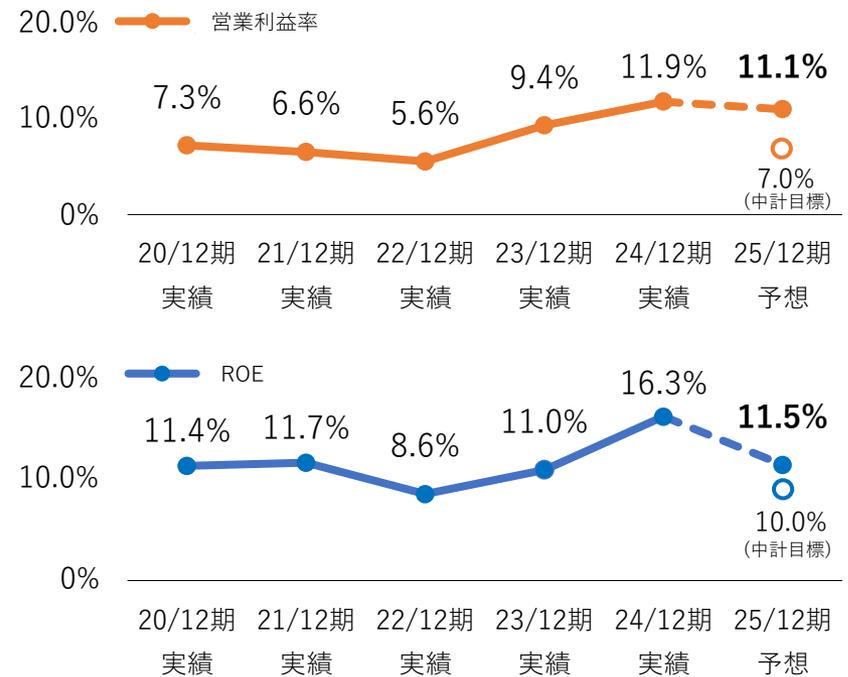
業績推移と数値目標

中期経営計画の最終年度である2025年12月期は、売上高は未達となる見込みながら、
営業利益率・ROEは目標達成の見通し

売上高の推移



営業利益率/ROEの推移



米国市場について

主要市場の米国はOPEを含む芝生管理の世界最大市場であり、今後も人口増加や経済成長を背景に、安定成長が予想される

市場の持続的な拡大によって生まれる需要を確実に取り込むべく、エンジンおよびバッテリー製品から構成されるマルチソリューションの提案に引き続き注力していく

米国の関連市場規模

緑地管理市場

➤ 米国の庭や公園等の緑地管理に係る市場

芝生管理市場

➤ 芝生の維持管理に係る市場
(機器・資材・緑地管理サービス等)

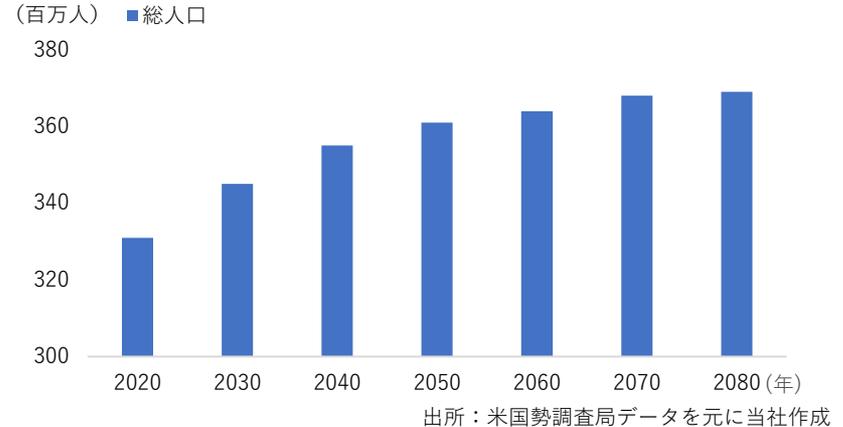
当社のターゲット市場

OPE市場 約140億ドル^{※1}

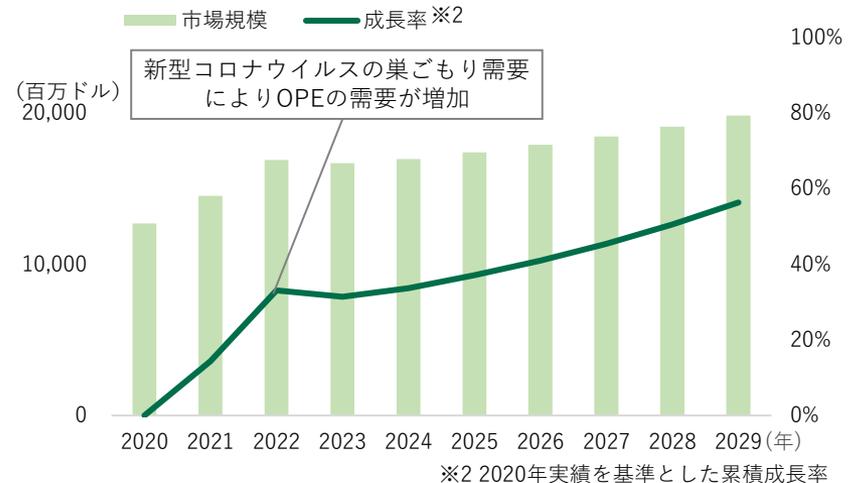
➤ 緑地管理用の機器の市場

※1 Markets and Markets 2024年版を元に当社作成

米国の総人口推移



北米のOPE市場規模・成長率の推移^{※1}



海外OPE事業

■ 北米市場 ■ 欧州市場

- 昨年に引き続き、米国子会社のエコーインクが全米でテレビCMを放映し、一般ユーザーへ訴求強化。ホームセンター向けの売上は好調に推移
- 欧州市場では、パターン走行対応の新型ロボット芝刈機の販売が引き続き好調。また、代理店の在庫調整が進んだことで、OPE事業も順調に伸長



CMは当社
[ホームページ\(2025.04.08\)](#)
 にてご覧いただけます

■ 中近東市場

- OPE製品の需要拡大が続く中近東市場において、高温環境下でも安定した性能を発揮する当社製品は価格・仕様の両面で高い評価
- 2025年第4四半期にUAEに販売会社を設立予定。併せて現地物流拠点を確保し、製品リードタイムの短縮による販売拡大と市場開拓を加速



ランドスケーパーによる
 作業風景 (UAE)



トピックス：既存事業領域②

産機事業

- 6月に「第7回 国際建設・測量展（CSPI-EXPO 2025）」へ出展。マルチハイブリッドシステムや、イベント・BCP対策で活躍する増設型のコンセントボックスなど、現場の作業効率化に向けた各種ソリューションを提案
- 北米においてブランドを「Shindaiwa」から「ECHO」に統一。ブランド認知度を活かした拡販に加え、ウェブサイトの拡張などにより顧客との接点と情報発信を強化



▲発電機に設置可能な
コンセントボックス



ECHOブランドの発電機

農林事業

- ロボット芝刈機など当社製品5機種が、環境省による令和7年度「農業機械の電動化促進事業」の補助金対象機種に採択。国内農業の脱炭素化に向け、全国の農業現場における電動農業機械の普及を後押し



ロボット芝刈機



電動高所作業機



電動作業機

トピックス：新規事業創造への取り組み①

社会のGXを成長の機会と捉え、異業種を含むパートナー企業との共同開発により、新たな収益の柱となる開発に取り組む

マルチハイブリッドシステム 10kVAの販売開始

- ディーゼル発電機、蓄電池、パワーコンディショナーを組み合わせた環境配慮型の発電システムを6月に販売開始
- 資本・業務提携先の株式会社アイケイエスと共同で、引き続き新たな発電・電源供給システムの開発に取り組む



i Labo株式会社との資本業務提携

- 既存のディーゼルエンジンを水素燃料で運転可能にする「水素化コンバージョン」技術を有するi Labo社と連携を強化
- 水素エンジン発電機の実証・量産化に向けた共同研究開発やビジネスモデル構築に向けた取り組みを推進



水素エンジン発電機の実証機を
大阪・関西万博2025に出展

トピックス：新規事業創造への取り組み②

The Toro Companyとロボット製品を共同開発 芝生管理市場における更なる展開を図る

やまびこヨーロッパ

自律走行型ロボット芝刈機の開発・製造



The Toro Company

芝やゴルフ場管理機械の製造・販売



Toro社と共同開発する自律走行型ロボット芝刈機

ロボットソリューションの拡大を推進

- やまびこヨーロッパと米ゴルフ場管理機械製造大手のToro社が協業契約を締結
- 共同で独自仕様のロボット製品を開発するほか、125か国以上にわたるToro社の販売網を通じて、当社製品を供給・拡販
- Toro社向けのロボット芝刈機は、欧州市場を中心に順調な立ち上がり。主力機種の高い評価に加え、協業による販売チャネルの拡大効果も表れており、今後の成長ドライバーとして期待

サステナブルとなるESG経営を実践し 中長期的に企業価値を向上

ESG投資指数への選定

- ESG対応に優れた日本企業を対象とした投資指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に3年連続で選定



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

環境への配慮

- 広島事業所に太陽光パネルを導入し、寄付型コーポレートPPAサービスを開始
発電された電力を当社が購入し、その支払いの一部を環境保全に取り組む団体に寄付



広島事業所の建屋屋上に設置した太陽光パネル

人的資本投資と拠点強化

- 次世代電源システムの共同開発拠点として、提携先の株式会社アイケイエスに「京都ラボ」を開設
当社から技術者を派遣し、新規事業の創出を加速
- 多様な人材の確保と柔軟な働き方の実現に向け、新宿にサテライトオフィスを開設

京都
やまびこ京都ラボ



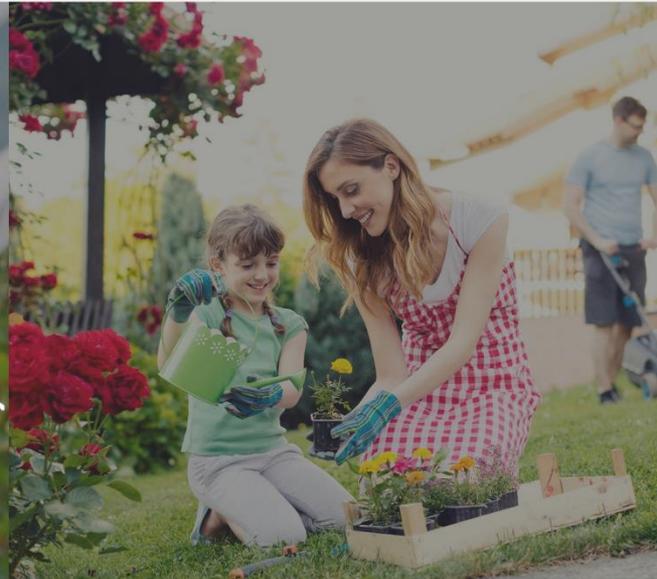
東京

新宿サテライトオフィス

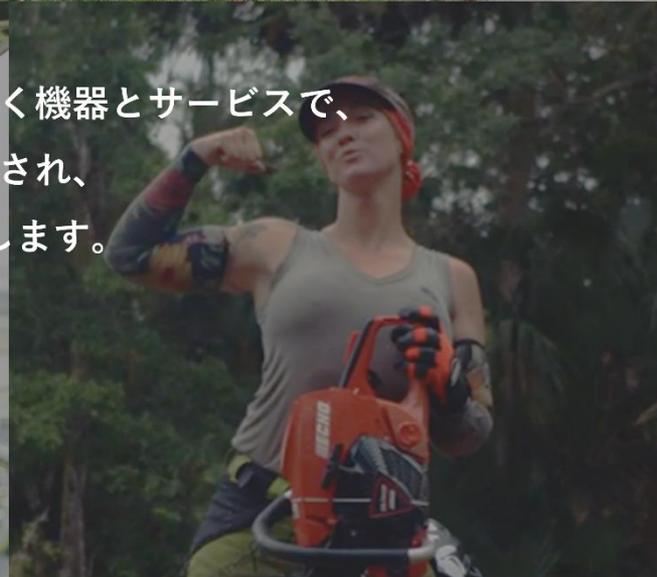
※10月開設予定



やまびこの存在意義



人と自然と
未来をつなぐ



私たちやまびこグループは、
世界最高レベルの環境技術と安全・安心で革新的な良く働く機器とサービスで、
社会と人々に信頼と感動をもたらし、期待され、
豊かな自然と共生する輝く未来創りに貢献します。

APPENDIX

会社概要

会 社 名	株式会社やまびこ (YAMABIKO CORPORATION)
設 立	2008年12月1日
本 社	東京都青梅市末広町一丁目7番地2
売 上 高	164,838百万円 (2024年12月期連結)
資 本 金	6,000百万円
決 算 期	12月31日
連 結 子 会 社 数	13社※ (国内6社・海外7社/2024年12月末現在)
従 業 員 数	3,059名 (2025年6月末現在/連結)
上 場 市 場	東京証券取引所プライム
証 券 コ ー ド	6250
発 行 済 株 式 総 数	44,108,428株 (2025年6月末現在)
単 元 株 式 数	100株

※持分法適用関連会社1社を除く

やまびこの歩み



世界初となる手持ちブロワに加え、国内初の背負式刈払機やスピードスプレーヤなどを開発

KIORITZ **ECHO**



2000年代の排出ガス規制強化・業界再編を経て、歴史と実績のある2社が合併。経営基盤強化とシナジー効果の発揮により、持続的成長を目指して設立

KIORITZ **shindaiwa** **ECHO**

株式会社 共立

設立 1947年 (昭和22年)

YAMABIKO

株式会社やまびこ

設立 2008年 (平成20年)

新タイワ工業株式会社

設立 1952年 (昭和27年)



電動チェーンソーを経て、世界初となる混合式4サイクルエンジンやマルチ発電出力などを開発

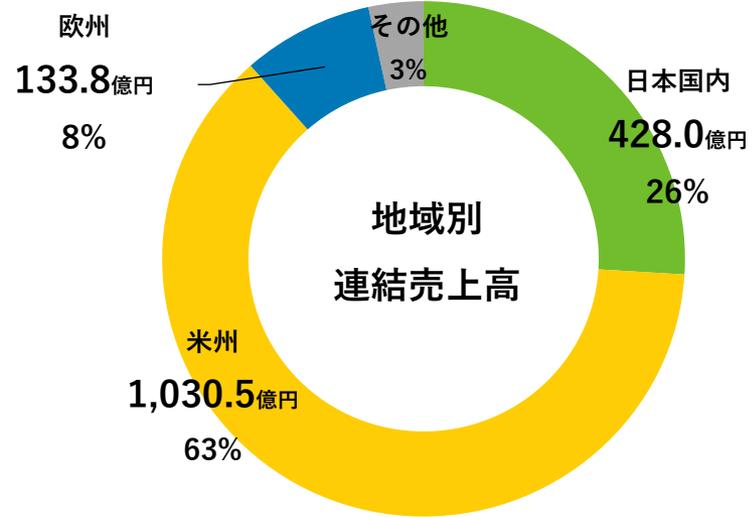
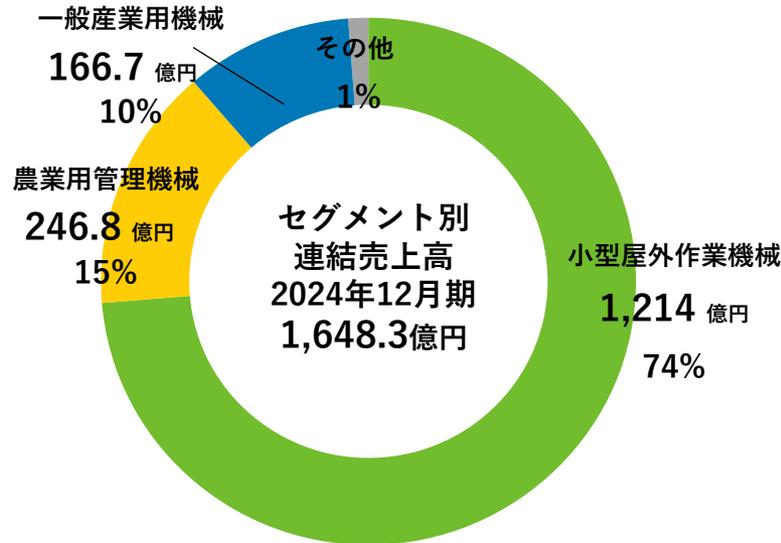
shindaiwa

社名の由来

山の神様である「山彦」を社名に掲げ、自然と環境の育成、整備への貢献を理念に持つ会社姿勢の象徴とする

業績推移と売上構成

売上高・営業利益推移



事業セグメント：小型屋外作業機械（OPE）



売上高構成比

73.7%

（2024年12月期）

国内は農家・林業家の芝刈や伐木用として、海外はOPE※と称され、主に緑地管理を事業とする専門業者が庭や緑地の管理に使用する作業機として販売

海外においては造園業など緑地管理を事業とする専門業者向けのプロユーザー市場と主に自家用で使用する住宅所有者向けの一般ユーザー市場に分類

製品は動力源にエンジンやモーターを搭載した屋外作業機のほか、ロボット芝刈機も含む



市場ニーズを満たす製品開発力

- 動力源を問わず、プロユーザー向けの高い作業効率を持つ製品を開発



出力 × 作業時間 = 仕事量

技術的な強み

高品質・環境規制に適合したエンジン

- 小型・軽量・高出力(手持機械に最適)・低コスト
- 環境対応エンジン認証数、業界トップクラス

環境負荷低減と作業性の両立

- プロサイドに立った出力・制御技術に優れる電動製品
- 化石燃料から代替燃料への適用技術

※Outdoor Power Equipment

事業セグメント：農業用管理機械



売上高構成比

15.0%

(2024年12月期)

国内における防除機械、
北米における
農作物収穫機械の製造販売



技術的な強み

培った防除技術にICTを融合し、 スマート農業に貢献

送風技術・噴霧技術・散布技術

- 水田、畑作、果樹、施設栽培などあらゆる栽培体系において均一散布を実現
- 低騒音・大風量を実現する送風システムを開発
- 農薬飛散を低減させるやまびこノズルの自社開発

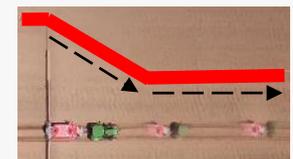


やまびこノズルの噴霧状態（扇形状）
（平均粒子径 110~270 ミクロン）

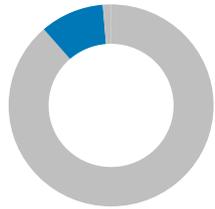


ICT

- 世界標準の通信技術（ISOBUS）を用いて、トラクタと相互通信
- 全球測位衛星システム（GNSS）により圃場内に適正な量の農薬を適正な場所にムダなく散布
- 設定した圃場の形状に合わせて散布エリアを自動制御する世界初の技術



事業セグメント：一般産業用機械



売上高構成比

10.1%

(2024年12月期)

建設工事・防災・減災のほか
資源採掘現場やイベント会場等で用いられる
機械の製造販売



ハイブリッド溶接機

2023年度省エネ大賞受賞

CO₂排出量を約**60%**削減
脱炭素社会へ貢献する革新の溶接機

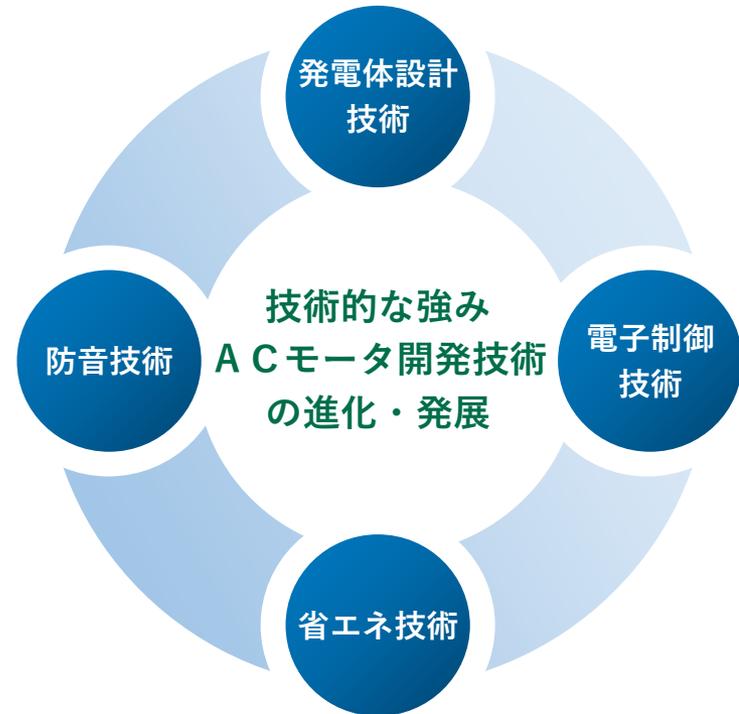


発電機



投光器

技術的な強み



世界初の三相/単相3線
切替なし同時出力可能
(米国特許・国内特許取得済み)

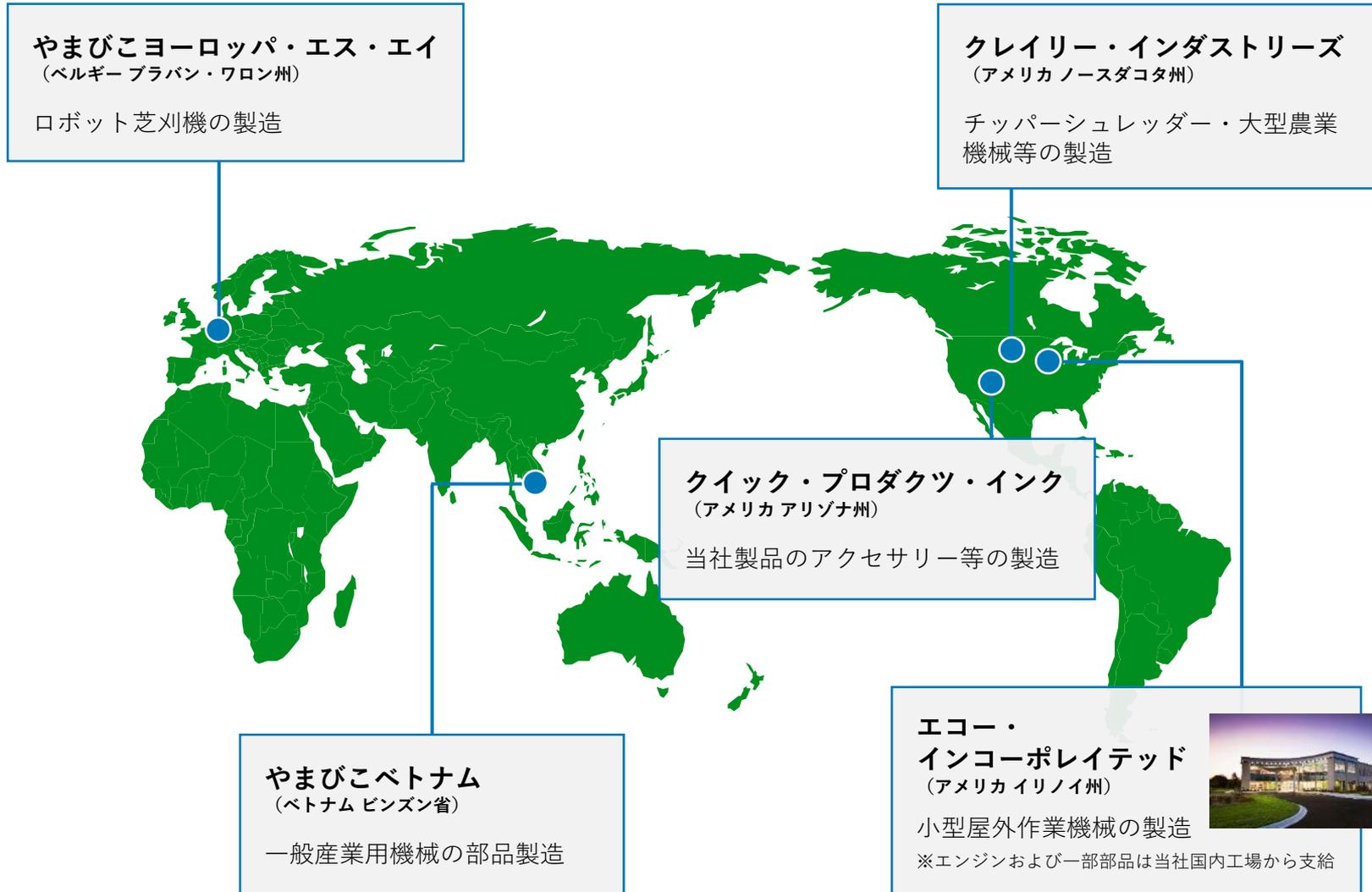


「ダブルECO」
低燃費・騒音排出ガス効果に優れた
2つのエコ機能の開発

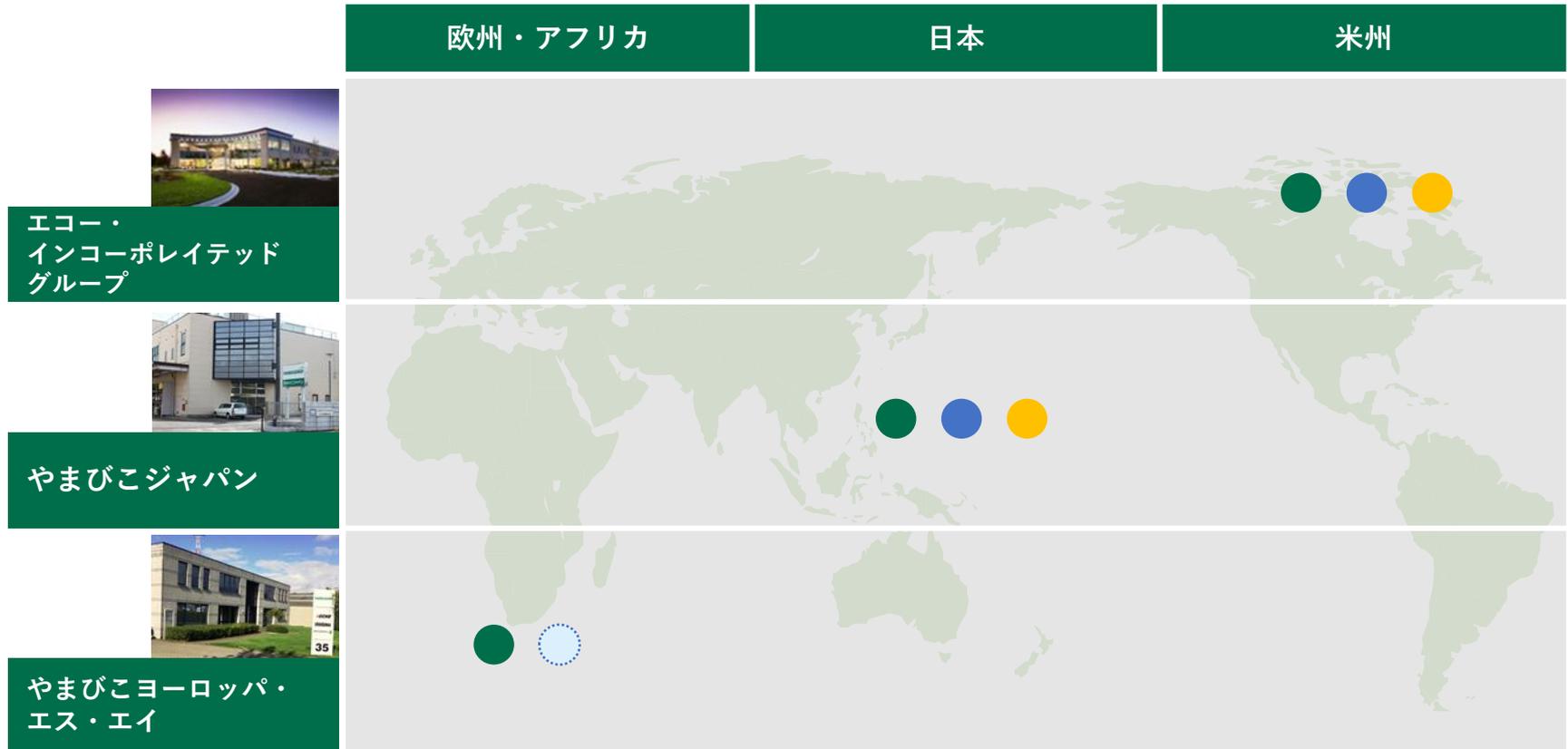
国内生産体制



海外生産体制



販売体制



● 小型屋外作業機械 (Outdoor Power Equipment)
 ● 一般産業機械
 ● 農業用管理機械

※アジア・中東・オセアニア地域にはやまびこ本社から販売

主要販売子会社

やまびこジャパン株式会社

会社名 やまびこジャパン株式会社
設立 2017年6月
本社 東京都青梅市
拠点 6営業部 38拠点

日本市場における販売拠点

多様な販売ルートと充実の営業体制で
3事業3ブランドの販売を担う

国内販売拠点一覧

- 農林営業部
- 産機営業部
- 営業拠点



充実した営業体制

- 共立・新ダイワ・エコーの3ブランドを販売
- 国内6営業部、38拠点の充実した営業体制
- 全社員の7割が営業・サービスに従事

セールス＝エンジニアとして迅速なサービス提供

- 高い専門性を有する社員がアフターサービスまで一貫して対応
- 農機具販売店やホームセンター、建機レンタル会社などの幅広い販売ルートを通じて多くのお客様に製品を提供

主要販売子会社



会社名 エコー・インコーポレイテッド
 設立 1972年11月
 本社 アメリカ・イリノイ州
 子会社 3社

エコー・インコーポレイテッドグループ

クレイリー・インダストリーズ
(アメリカ ノースダコタ州)
 大型農業機械等の製造・販売

エコーパワーイクイップメント
(カナダ オンタリオ州)
 小型屋外作業機械・農業機械の販売



クイック・プロダクツ・インク
(アメリカ アリゾナ州)
 当社製品のアクセサリー等の製造

エコー・
 インコーポレイテッド
(アメリカ イリノイ州)
 小型屋外作業機械・一般産業用機械の
 製造・販売



米州で50年続くECHOブランド

OPE・産業機械・大型農機用補助機の 製造・販売拠点

やまびこグループ最大の販売会社

- 1972年の設立以来、米州市場で小型屋外作業機械を販売
 グループ売上高の6割を占める（2024年実績）

OPE市場をリードするECHOブランド

- パワーブロウ（1978年）や芝生の溝切機（1990年）など
 世界初となる製品を投入し常に市場をリード
- 「Xシリーズ」をはじめプロユーザーから信頼を集める



世界初のパワーブロウ



プロ向け製品群「Xシリーズ」

主要販売子会社

YAMABIKO EUROPE SA

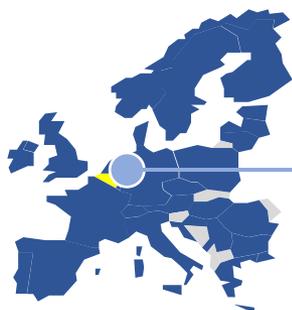
会社名 やまびこヨーロッパ・エス・エイ

設立 2002年3月

本社 ベルギー・ブラバン・ワロン州

欧州地域の販売拠点

欧州・アフリカの34か国に販売



やまびこヨーロッパ・エス・エイ

自動芝刈機の製造・販売
および小型屋外作業機械の販売



欧州地域のOPE販売とロボット開発拠点

2021年に完全子会社化 欧州販売戦略を推進し売上拡大を図る

ベルギーから欧州全域へ展開

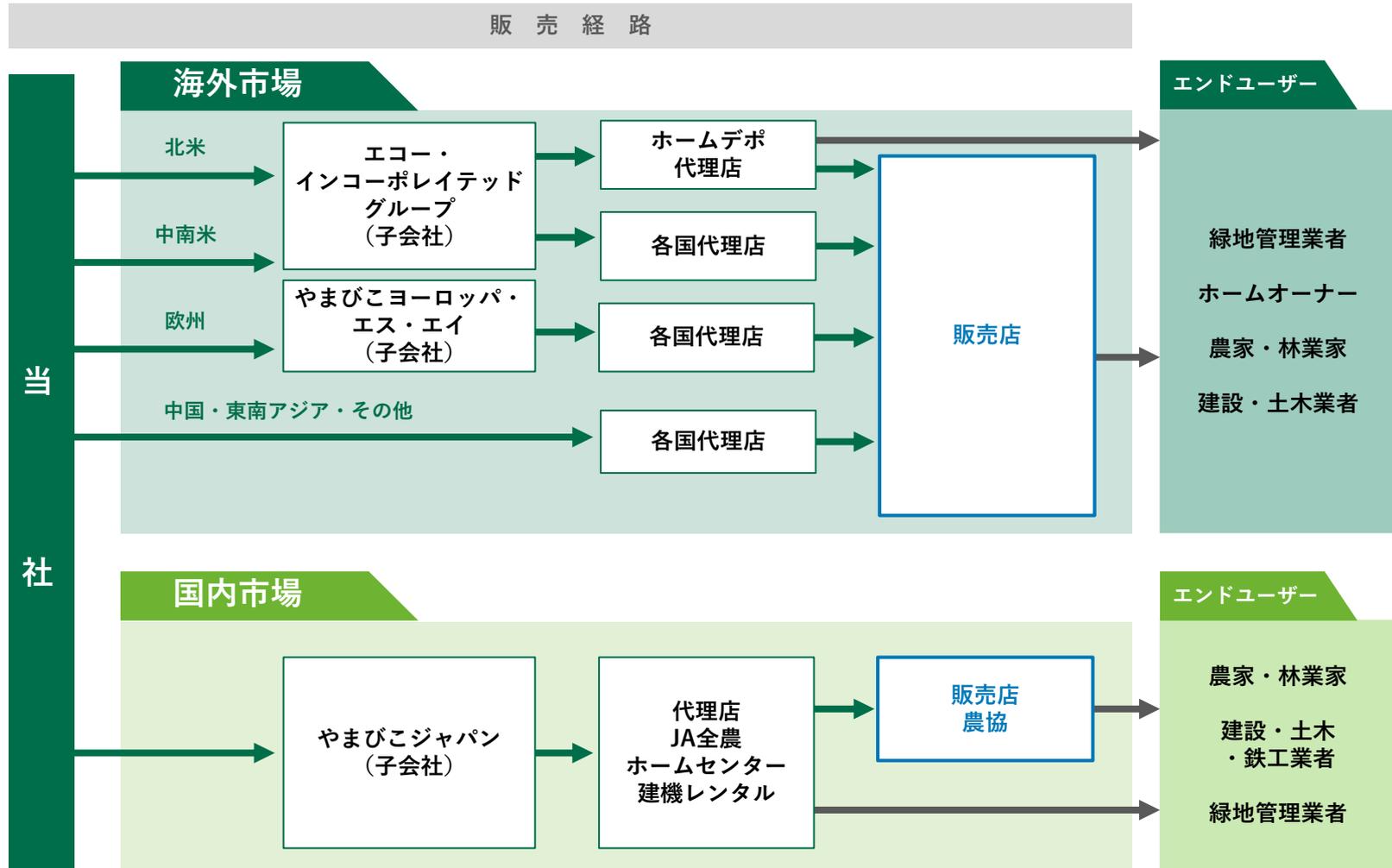
- 欧州・アフリカの34か国でOPE製品を販売
- 統一した販売戦略と代理店・販売店サポートにより更なる売上拡大を図る

お客様の声を取り入れた開発・販売体制

- ロボット芝刈機の普及が進む欧州でマーケットインの開発を行い、業界をリードするロボット芝刈機を開発・販売



主な販売経路



国内エンドユーザー



農家

建設・土木・
鉄工業者



林業家

海外エンドユーザー



緑地管理業者



ホームオーナー



農家・林業家



建設・土木業者

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

お問い合わせ先

株式会社 やまびこ 企画・経理本部 経営企画部

〒198-8760 東京都青梅市末広町1-7-2

e-mail : ir6250@yamabiko-corp.co.jp